

令和6年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました

○1月27日（月）に第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー7人、事務局3人、上越地域在宅医療推進センター1人の11人でした。

○今年度の振り返りを踏まえ、来年度に向けた意見交換と事例検討を行いました。

【今年度の振り返り】

○研修パッケージ動画の短縮版（60分）を作成し、部会委員が中心となって各所で研修会を実施しました。それぞれの研修会を振り返り、研修パッケージの活用をより広めていくためにはどうすればいいか、意見交換を行いました。

◇研修開催実績◇

- ・高田福祉会で開催（10/15、11/14、12/12の3回）
- ・多職種少人数制で開催（11/20）
- ・上越市5地域包括支援センター合同の介護支援専門員研修会で実施（11/29）
- ・上越歯科医師会在宅歯科医療連携室主催の多職種研修会で実施（12/6）

◇意見交換◇

- ・研修開催にあたり所要時間が問題であれば、事前に事例を配布すれば短い時間の中でもグループワークの時間を十分にとれ、学びの深いものになるのではないか。
- ・誰もが気軽に開催者になれるよう、シナリオを作成するとよいのではないか。等

【令和7年度の方向性】

◆目指す姿◆

- ・対人支援の基本理念が広まり、当事者も支援者も共に、結果に満足できる。
- ・研修を開催できそうな職能団体へ声掛けを行い、実施へつなげる。

◆令和7年度の取組方針◆

- ・部会委員がファシリテートしなくても研修パッケージの活用が広まるよう、より使い

やすいものに改善する。（部会の目的を入れた動画を作成、進行シナリオの作成等）

- ・がんぎネットに研修の事例部分のみ掲載し、時間の短縮とともに事業の認知度を高める。

【事例検討】

○訪問介護員業務で困っていること

◇計画にない支援を依頼されたり、なんでもやってもらえる家政婦がわりにされたりすることがある

→対応策

- ・介護保険は自立支援であるということを改めて本人と確認する。
- ・無理な依頼を断る際は、なぜできないのか専門的な知識から根拠をもって説明した上で断るようにする。

◇慣れていることや経験の差から指名されることがある

→対応策

- ・新人は技術や結果で勝負するのではなく、それ以外のところ（例えば熱意等）で信頼関係を築くようにする。
- ・人生の先輩である対象者から学ぶ姿勢で関わる等の工夫をする。

◇専門職であるというモチベーションを保つためには？

→対応策

- ・チームとして仕事をしている感覚がモチベーションにつながるのではないか。
- ・訪問介護員からの情報が、本人や他職種の安心につながり助かっていることを知ってもらう。

